

EVENT

「フェムテック&フェムケア」をもっと知り考えていく イベントを開催

—フェムテックジャパン2022/フェムケアジャパン2022—

フェムテック、そしてフェムケアを自分ごととして考える場であり
さまざまなアイテムが紹介されているイベントが開催。2年目の今年は規模が昨年の2倍。
今、大注目のイベントを紹介しよう。

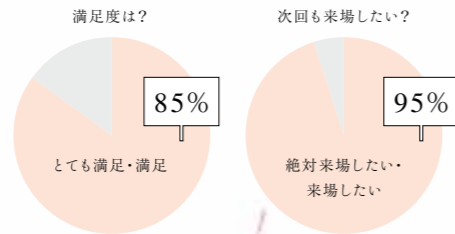


「フェムテックジャパン2022/フェムケアジャパン2022」について

フェムテック、フェムケアを自分ごとにし、誰もがかかわれるよう知識と成功体験を増やすことをテーマに行われているイベント。第1回の2021年は口コミで広がり、満員御礼500人の来場者があった。出展されたのは吸水ショーツ、月経ケア、デリケートゾーンケア商品、人工乳房、乳がんの無痛検査キット、妊活アイテム、授乳用の衣類、セクシャルウェルネスアイテムなど。興味深いところでは女性の自立をテーマとして女子サッカーのWEリーグの参加もあった。今年は春に東京、夏に大阪での開催を予定。東京は前回の倍の広さになるが、すでに多くの出展者より出展希望が届いている（新規出展者も継続して募集中）。コンテンツとしては出展の他、トークショーやヨガなども予定。フェムテックやフェムケアがより身近になりそうだ。「約5年間、自然派生理用品の啓蒙活動をし、女性の不快感を取り除いて快適の輪を広げることの重要性を再確認しました。フェムテックやフェムケアが広まっていくことを願っています」（野口さん）。

Access

開催日：2022年3月24日（木）12：00～20：00
会場：「アニヴェルセル表参道」
3F[THE GRAND]、4F[THE COSTA]
東京都港区北青山3-5-30
問い合わせ先：
フェムテックジャパン
https://femtech-japan.com
info@femtech-japan.com
来場のお申し込みは
こちらのURLかQRコードから！
https://femtechjapan20220324.peatix.com



第1回来場者アンケートより

- ・フェムテックに特化した製品が集まっていた見やすかった。
- ・膣ケアや生理・妊活のことなど、初めて知る情報が多く、勉強になった。
- ・想像以上にさまざまなジャンルの商品があり、楽しめた。他多数



昨年は約500名の来場者、26社・団体が参加。さまざまな製品の紹介やセミナーが行われた。来場者は想像以上の情報量に驚きと喜びの声を上げていた。今年は会場が2フロアになりさらに充実。

Profile

話してくれた人
野口俊英さん

のぐちとしひで。「フェムテックジャパン」代表。自然派生理用品ブランドのプロジェクトマネージャーを経て、フェムテックの世界観を多くに伝えるべく活動。

女性としてストレスフリーに生きるための「フェム」とのつき合い方

生物学的に女性としての体で生まれてきたことでさまざまなストレスを抱えて生きている人が多かった。しかし今、そのストレスを手放せる社会にゆつくりと足を踏み出した。そんな時代の「フェム」とのつき合い方。

イラスト=タムラカヨ (asterisk-agency) 構成・文=大嶋朋子 (Lotus8)

femtech-2

フェムケアとは？

フェムテックという言葉が上陸する前から使われていた言葉で、女性をケアするものをすべて指す。イベントにはそもそものフェムテックという言葉では収まりきらない種類の「女性をサポートする」団体が集まった。「いろいろなものがある」と思っています。女性の心身の健康課題に取り組んでいる会社や団体、アイテムはすべてフェムケアと考えています。

femtech-1

フェムテックとは？

もとはドイツで生まれたもので「フィメール」＝女性と、「テック」＝テクノロジーを合わせた造語。テクノロジーを使って、女性の健康課題を解決することを目的としてスタートした。今や世界中に広まり、大きな産業となりつつある。日本では生理を管理するアプリや月経ケア用品などが主流だが、生理に関するものに限らず、女性の健康を管理するものはフェムテックと呼ばれている。

近ごろ耳にする回数が増えたフェムテックという言葉。とても幅広く使われているので、混乱している人も少なくないだろう。

そもそもフェムテックとは「フィメール」＝女性と、「テック」＝テクノロジーを合わせた造語。「女性特有の健康問題をテクノロジーで解決する」という概念で、アプリの開発などからスタートし、今やさまざまな分野に急速に広がっている。

排卵を中心とした女性ホルモンのバイオリズムは、女性の心身に大きな影響をもたらす。ちょっとしたイライラやだるさなどから、日常生活を送れないほどの不調も多く、1カ月の間で女性自分らしく気持ちよく過ごせるのは1週間程度とまで言われている。閉経後の変化も多大で、女性の心身はいつまでも女性ホルモンの影響下にあると言える。

少し前までは、これらは女性が自分一人で悩む問題だったが、今や婦人科のクリニックはもろろん、友人同士でも話せる話題になりつつあり、男性にも少しずつ問題意識が芽生えてきたように感じる。しかし、「フェムテックジャパン」の代表である野口俊英さんはこう語る。

「フェムテックという言葉が耳にする機会が増え、昨年はフェムテックばかりと言っていたほど、さまざまな企業が参入しています。しかし、実はフェムテックには定義がなく、言葉の認識は実際、女性で30%程度なんです。ただ、女性であれば誰もが生理に関することには興味があるもので、知れば理解し、もっと知りたくなっています」

野口さんはもともと自然派生理用品ブランドのプロジェクトマネージャーだった。その経験から女性の悩みを知り、解決する手立てとしてフェムテックに取り組んでいる。

「フェムテックという言葉が耳にする機会が増えましたが、明確なワードの定義づけというものはできていないと感じています。私は広く女性の健康問題を解決するためのものとして捉えたいと感じているので、月経ケア、妊娠・出産、婦人科や乳房の病気、セクシャルウェルネス、女性の自立や働き方、精神的なケアも含め、取り組んでいきたいと考えています。『テック』という言葉では収まり切らないとも感じ、フェムケアという言葉も同時に用いています。女性をケアするものや概念すべてということですが」

テクノロジーに限らず、女性の心身をケアするものに全般と捉え、それらとリンクするものやメソッドが該当するならば、ヨガはまさにそのものと言っている。今の自分と向き合い、認め、自分らしく生きていくための方法が詰まり、しかも流派や動き方意識によっていろいろ生み出されてきた。ヒューマンテクノロジー。だから、令和の時代、新しい技術や価値観で女性の生き方をサポートする「フェムテック」を、ヨガをする私達は自分ごととして積極的に取り入れ、広めていきたい。それは女性のみならず、すべての人にとって「豊かさ」をもたらすに違いない。